

主要各国における老衰死亡率の研究

東京女子医科大学衛生学教室 (主任 吉岡博人教授)

石 川 徹
イシカワ トオル

(受付 昭和35年9月1日)

I 緒 言

わが国の「老衰」死亡率について、著者が本邦老衰死亡率の研究第1¹⁾、2²⁾、3³⁾報に示したごとく全国、府県別、男女別、年代別に観察すると、「老衰」死亡率は時代により、地方により特性ある結果を示した。

わが国の「老衰」死亡率は戦後に激減したが、まだ国民死因の上位⁴⁾を占め、近年の国民寿命の延長⁵⁾とともになお重要な死因であると思われる。

今回は世界の主要22カ国について、「老衰」死亡に関する研究を行ない、わが国の成績と比較しつつ批判を加える。

II 資料および研究方法

1 資 料

Demographic Yearbook (Statistical Office of the United Nations, New York), 1956, 1957 を用いた。このうち主要22カ国をえらび、調査年度は資料の関係上1955或いは1956年度である。

1) 人 口

各国別、男女別に総人口および年令階級別人口を調査した。

2) 死 亡 数

各国別、男女別に総死因による死亡数を調査するとともに、「老衰」死亡としては国際死因簡単分類B45(精神病の記載のない老衰ならびに診断名不適当および不明の原因)を用い、各国とも45才以上にB45の死亡数のほとんどが含まれるので、45才以上に限つて死亡数を調査した。本研究の目的とする、いわゆる「老衰」死亡は資料の関係上B45の分類によらねばならなかつたが、これは「老衰」以外の不明の原因による死亡数が含まれる。また年令階級別は資料の関係上、45~64才、65才以上の2つの年令階級別となつた。

この国際死因簡単分類は、第6回国際死因分類会議(1948年)に決定されたもので⁶⁾、わが国では昭和25年(1950年)より適用されたものである。

2 研究方法

いずれも男女別に主要22カ国について計算した。

1) 男女別総死亡率

人口10万対の総死亡率を算出した。

2) 男女別「老衰」粗死亡率

年令45才以上の国際死因簡単分類B45を「老衰」死亡として、1955または1956年度の粗死亡率(人口10万対)を算出した。

3) 男女別「老衰」訂正死亡率

1955または1956年度の「老衰」訂正死亡率(人口10万対)を算出した。計算上の年令階級は、資料の関係上45~64才と65才以上の2階級である。使用した標準人口は、わが国昭和5年(1930年)の全国人口を用いて、著者の本邦老衰死亡率の研究および当教室における他の死因別死亡率の研究との照会に便ならしめた。またアメリカ合衆国のみは、「老衰」死亡数は1955年度であるが、年令階級別人口は1955年度がないために1956年度のを用いた。

4) 「老衰」訂正死亡率の性比

(男子訂正死亡率/女子訂正死亡率)×100の公式により算出する。

5) 「老衰」の男女別、年令階級別死亡率

45~64才、65才以上の2階級につき、年令階級別死亡率(人口10万対)を算出する。

6) 男女別「老年者老衰死亡率」

45才以上の年令層における、45才以上の「老衰」死亡の状態を知るため次の公式によつた。

(45才以上の「老衰」死亡数/45才以上人口)×10,000
(人口1万対)

7) 男女別「老人人口比率」

総人口に対し、60才以上の老人人口の割合をみるため次の公式により千分比を求めた。

(60才以上人口/総人口)×1,000

8) 「老衰」の男女別「死因比率」

総死亡総に対し、「老衰」死亡数が占める割合を次の公式を用い百分比を算出した。

$$(\text{「老衰」死亡数} / \text{総死亡数}) \times 100$$

III 研究結果

1 男女別総死亡率

第1表によつて男女別、総死亡率をみる。

男子はオーストラリアの1,364.8を最高とし、イスラエルの667.3が最低である。そのうち22カ国の約半数は1,000以上の死亡率を示す。女子はフランスの1,142.1を最高とし、イスラエルの593.0が最低である。

大体において、男女ともにヨーロッパに高率国を認め、北欧、フィリッピン、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ合衆国が中間、カナダ、台湾、日本、イスラエルが低率である。日本は高率順にみて男子21位(833.0)、女子20位(722.6)の低率である。

第1表 男女別総死亡率(人口10万対)

主要国別	年度別	総死亡率	
		男	女
日本	1955	833.0	722.6
台湾	1956	845.1	757.3
フィリッピン	1956	1022.8	881.6
オーストラリア	1955	991.8	789.0
ニュージーランド	1955	985.5	803.6
カナダ	1956	939.4	698.5
アメリカ合衆国	1955	1076.6	788.1
イスラエル	1956	667.3	593.0
オーストラリア	1956	1364.8	1137.8
ベルギー	1955	1328.7	1127.0
デンマーク	1956	924.7	823.7
フィンランド	1956	968.7	841.0
フランス	1955	1278.3	1142.1
西ドイツ	1955	1186.3	986.1
ハンガリー	1956	1136.5	989.0
ルクセンブルグ	1956	1346.9	1135.3
ノールウエー	1955	869.7	827.8
スウェーデン	1955	982.0	908.4
スイス	1955	1069.6	958.1
イングランドおよびウェールズ	1955	1248.2	1092.7
北アイルランド	1956	1122.5	1008.1
スコットランド	1956	1285.2	1123.9

2 男女別「老衰」粗死亡率

第2表によつて、男女別「老衰」粗死亡率をみる。

死亡率最高はフランスで、男子181.5、女子207.7である。最低は男子ニュージーランド7.8、女子アメリカ合衆国6.7となり、最高と最低の差が著しい。

最高から5位までの国を示すと、男子は1位フランス、2位ベルギー、3位フィリッピン、4位ルクセンブルグ、5位西ドイツとなり、日本は6位になる。女子は

1位フランス、2位ベルギー、3位ルクセンブルグ、4位フィリッピン、5位日本である。低率5カ国を記すと、男子は18位オーストラリア、19位アメリカ合衆国、20位カナダ、21位デンマーク、22ニュージーランドとなる。女子は18位オーストラリア、19位デンマーク、20位カナダ、21位ニュージーランド、22位アメリカ合衆国の順となる。日本の死亡率は、男子66.2、女子90.5で、女子が男子より高率である。

3 男女別「老衰」訂正死亡率

第2表、第1図によつてみる。

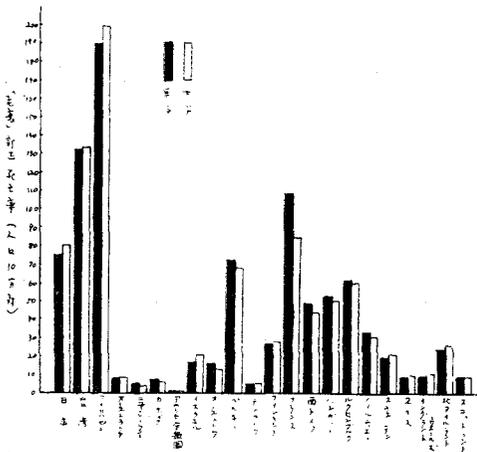
男女ともに死亡率最高はフィリッピンで、男子189.7、女子198.8、最低は男女ともにアメリカ合衆国で男子0.7、女子0.3である。最高と最低の差が著しく大きい。

最高のもので5カ国を記すと、男女ともに同様な順位である。1位フィリッピン、2位台湾、3位フラン

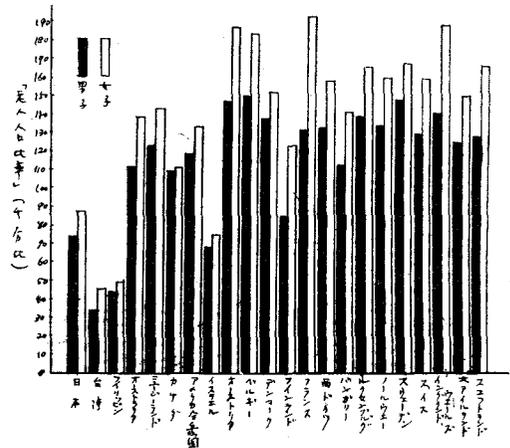
第2表 「老衰」の男女別死亡率(年齢階級45才以上における国際死因分類B45)

主要国別	年度別	粗死亡率(人口10万対)		訂正死亡率(人口10万対)		「老年者老衰死亡率」(人口1万対)	
		男	女	男	女	男	女
台湾	1956	51.4	75.5	131.9	133.4	38.9	55.7
フィリッピン	1956	104.7	120.3	189.7	198.8	89.7	89.4
オーストラリア	1955	10.7	14.3	7.7	8.2	3.9	4.8
ニュージーランド	1955	7.8	8.2	4.8	4.2	2.7	2.7
カナダ	1956	9.3	8.9	6.7	6.1	3.7	3.6
アメリカ合衆国	1955	10.2	6.7	0.7	0.3	3.6	2.2
イスラエル	1956	14.5	20.7	17.2	21.1	6.5	9.2
オーストラリア	1956	29.0	31.3	15.7	13.0	8.1	7.7
ベルギー	1955	136.9	160.2	72.2	67.7	38.6	40.9
デンマーク	1956	8.8	9.9	5.1	5.1	2.7	2.9
フィンランド	1956	26.9	42.8	26.3	27.1	10.9	14.3
フランス	1955	181.5	207.7	107.4	83.9	56.8	53.6
西ドイツ	1955	81.2	86.7	47.7	43.7	24.0	23.2
ハンガリー	1956	69.8	85.5	50.6	48.9	23.4	25.6
ルクセンブルグ	1956	104.4	123.6	60.2	59.0	29.3	32.5
ノールウエー	1955	53.2	62.1	31.9	30.0	16.9	17.9
スウェーデン	1955	36.0	43.3	19.1	19.9	10.5	11.9
スイス	1955	12.8	19.1	7.9	9.3	4.0	5.3
イングランドおよびウェールズ	1955	15.6	24.8	8.7	9.8	4.6	6.3
北アイルランド	1956	38.6	51.5	23.6	25.4	13.3	15.9
スコットランド	1956	15.1	20.2	9.3	9.3	4.7	5.6

ス、4位日本、5位ベルギーである。低率5カ国も男女ともに同様な順で、18位オーストラリア、19位カナダ、20位デンマーク、21位ニュージーランド、22位アメリカ合衆国となる。そのほかヨーロッパは高率から低率国まで分布し、北欧3国、イスラエルは中間である。4位の日本は男子75.2、女子81.0で女子が男子より高率であ



第1図 男女別「老衰」訂正死亡率（人口10万対）



第2図 男女別「老人人口比率」（千万比）

第3表 男女別「老人人口比率」（千分比）

主要国別	年度別	男	女
日本	1955	73.8	87.4
台湾	1956	34.3	45.9
フィリッピン	1956	43.6	48.8
オーストラリア	1955	111.8	137.3
ニュージーランド	1955	122.6	142.8
カナダ	1956	108.9	111.1
アメリカ合衆国	1955	119.3	133.0
イスラエル	1956	68.0	75.1
オーストリア	1956	147.3	186.5
ベルギー	1955	129.9	182.8
デンマーク	1956	137.7	152.4
フィンランド	1956	85.2	123.1
フランス	1955	131.8	192.5
西ドイツ	1955	133.1	158.0
ハンガリー	1956	112.3	140.6
ルクセンブルグ	1956	138.9	165.2
ノールウエー	1955	134.5	159.1
スウェーデン	1955	147.7	167.4
スイス	1955	129.1	159.1
イングランドおよびウェールズ	1955	140.2	187.7
北アイルランド	1956	124.9	150.6
スコットランド	1956	128.4	166.5

第4表 「老衰」訂正死亡率の性比
（男子訂正死亡率/女子訂正死亡率）×100

主要国別	年度別	性比
日本	1955	92.8
台湾	1956	98.8
フィリッピン	1956	95.4
オーストラリア	1955	93.9
ニュージーランド	1955	114.2
カナダ	1956	109.8
アメリカ合衆国	1955	233.3
イスラエル	1956	81.5
オーストリア	1956	120.7
ベルギー	1955	106.6
デンマーク	1956	100.0
フィンランド	1956	97.0
フランス	1955	128.0
西ドイツ	1955	109.1
ハンガリー	1956	103.4
ルクセンブルグ	1956	102.0
ノールウエー	1955	106.3
スウェーデン	1955	95.9
スイス	1955	84.9
イングランドおよびウェールズ	1955	88.7
北アイルランド	1956	92.9
スコットランド	1956	100.0

る。

粗死亡率と比較すると、粗死亡率ではフランスが男女ともに最高率であるが訂正死亡率では3位を占める。訂正死亡率で最高のフィリッピンは粗死亡率では男子3位、女子4位、おなじく訂正死亡率2位の台湾は粗死亡率で男子9位、女子8位となっていた。一方、第3表、第2図の「老人人口比率」をみると、フランスは男子131.8、女子192.5と高率なるにくらべ、フィリッピン男子は43.6、女子は48.8、台湾男子は34.3、女子は45.9と著しく低率であるから、粗死亡率を訂正するとフィリッ

ピン、台湾がフランスを凌いで1、2位を占めたものと思われる。訂正死亡率の低率5カ国は粗死亡率の場合と低率順位は大差ない。

4 「老衰」訂正死亡率の性比

第4表にてみるごとく、アメリカ合衆国が最高で233.3となり、男子は女子の約2倍以上も「老衰」で死亡する。スコットランド、デンマークは大体男女同数が「老衰」で死亡する。性比の最低はイスラエルの81.5で、女子の方が男子よりも約20%近く多く「老衰」で死亡す

る。

性比100以上はニュージーランド、カナダ、アメリカ合衆国、ノールウェー、オーストリア、ベルギー、フランス、西ドイツ、ハンガリー、ルクセンブルグの10カ国で、全体の約半数は男子が女子より多く「老衰」で死亡する。性比100以下はアジア4国、オーストラリア、フィンランド、スウェーデン、スイス、イングランドウェールズ、北アイルランドの10カ国で、これらの国は女子が男子よりも多く「老衰」死する。ヨーロッパには性比100以下が少い。日本は92.8である。

5 「老衰」の男女別、年齢階級別死亡率

第5表にみるごとく、男女ともに45～64才よりも65才以上が死亡率高く、とくに女子に著しい。

第5表 男女別、年齢階級別「老衰」死亡率 (人口10万対)

主要国別	年度別	男		女	
		45～64才	65才以上	45～64才	65才以上
日本	1955	43.2	1292.2	27.7	1448.4
台湾	1956	58.4	2317.1	46.8	2380.8
フィリッピン	1956	137.7	3175.2	93.7	3475.8
オーストラリア	1955	4.2	133.3	2.4	148.1
ニュージーランド	1955	1.5	86.2	0.5	79.2
カナダ	1956	7.1	106.0	3.8	105.3
アメリカ合衆国	1955	1.8	8.2	0.7	5.4
イスラエル	1956	10.7	294.3	14.7	355.6
オーストリア	1956	6.8	276.3	2.9	238.4
ベルギー	1955	55.0	1201.5	26.9	1199.3
デンマーク	1956	3.2	87.0	2.6	89.4
フィンランド	1956	6.3	478.3	1.8	507.2
フランス	1955	132.5	1637.2	71.2	1374.5
西ドイツ	1955	40.3	783.2	14.0	784.3
ハンガリー	1956	8.6	929.8	6.6	903.4
ルクセンブルグ	1956	67.7	938.1	28.9	1028.2
ノールウェー	1955	38.3	490.1	13.3	528.3
スウェーデン	1955	8.1	336.6	5.5	360.0
スイス	2955	2.6	141.8	3.1	167.3
イングランドおよびウェールズ	1955	0.9	162.5	0.2	185.3
北アイルランド	1956	2.9	438.2	0.6	478.5
スコットランド	1956	7.5	154.2	2.4	168.6

訂正死亡率が高率のフィリッピン、台湾、日本、フランス、ベルギーは45～64才と65才以上の死亡率の差が比較的少ない。また訂正死亡率が低率のオーストラリア、ニュージーランド、カナダ、デンマーク、アメリカ合衆国も45～64才と、65才以上の死亡率が比較的接近している。その他の国は45～64才よりも65才以上に「老衰」死亡率が著しく高率で、とくにオーストリア、フィンランド、ハンガリー、スイス、イングランドウェールズ、北アイルランドがそれである。日本は45～64才は男子43.2、

女子27.7、65才以上は男子1,292.2、女子1,448.4の死亡率を示し、高年齢層と低年齢層の死亡率の比率は、男子約30倍、女子約50倍となつている。

6 男女別「老年者老衰死亡率」

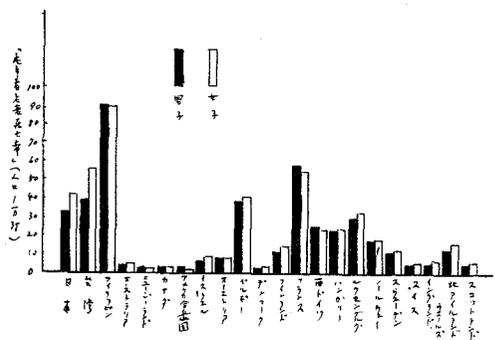
第2表、第3図にみるごとく、男女ともにフィリッピンがとくに高率で1位を占め、男子89.7、女子89.4である。最低は男子デンマークの2.7、女子アメリカ合衆国の2.2である。また男子より女子高率の国が多数で22カ国のうち14カ国である。

各国の高率または低率国の順位は、訂正死亡率の場合と大体同様である。高率5カ国の男子は1位フィリッピン、2位フランス、3位台湾、4位ベルギー、5位日本となり、女子は1位フィリッピン、2位台湾、3位フランス、4位日本、5位ベルギーである。低率5カ国は、男子18位オーストラリア、19位カナダ、20位アメリカ合衆国、21位ニュージーランド、22位デンマークである。女子は18位オーストラリア、19位カナダ、20位デンマーク、21位ニュージーランド、22位アメリカ合衆国である。ただし訂正死亡率と比較して、最高率と最低率の比率が訂正死亡率は男子271倍、女子662倍であるが、「老年者老衰死亡率」は男女とも33倍であつて訂正死亡率の場合より接近していることが観察された。日本の「老年者老衰死亡率」は男子32.6、女子42.4である。

7 男女別「老人人口比率」

第3表、第2図にてみる。

22カ国全部が女子の方が高率を示す。最高率は男子スウェーデンの147.7、女子フランスの192.5で、最低率は



第3図 男女別「老年者老衰死亡率」 (人口1万対)

男子台湾34.3、女子台湾45.9となる。

大体男女ともにヨーロッパ諸国は高率から中間までを占め、北欧は高率であるがフィンランドのみ低率である。アメリカ合衆国、オーストラリア、ニュージーランドは中間で、カナダ、アジアの3国が著しく低率である。日本は男女ともに高率国からみて19位(男子73.8、女子87.4)であつた。

訂正死亡率の高率5カ国であつたフィリッピン、台湾、フランス、日本、ベルギーについてみる。フィリッ

ピンの「老人人口比率」は男女ともに21位、台湾は男女とも22位、フランスは男子9位、女子1位、日本は男女ともに19位、ベルギーは男子1位、女子4位となる。すなわちアジア3国は、老人が少なくて訂正死亡率は甚だしく高率であり、フランス、ベルギーは老人が多くて訂正死亡率も高率である。訂正死亡率の低率5カ国について、同様にみてもみる。オーストラリアの「老人人口比率」は男子3位、女子15位、カナダは男子17位、女子18位、デンマークは男子6位、女子11位、ニュージーランドは男子13位、女子12位、アメリカ合衆国は男子14位、女子16位となる。オーストラリアとデンマークの男子は老人が多いが、他は大体中間で、老人人口の多少と訂正死亡率が低率であることとあまり関係あるように思われない。

第6表 男女別「老衰」の「死因比率」(百分比)

主要国別	年度別	男	女
日本	1955	9.2	13.6
台湾	1956	6.7	10.6
フィリッピン	1956	18.0	21.9
オーストラリア	1955	1.1	1.8
ニュージーランド	1955	0.7	1.0
カナダ	1956	1.2	1.5
アメリカ合衆国	1955	1.3	1.2
イスラエル	1956	3.0	4.3
オーストリア	1956	2.3	2.8
ベルギー	1955	11.2	15.0
デンマーク	1956	1.1	1.3
フィンランド	1956	2.9	5.1
フランス	1955	15.6	19.2
西ドイツ	1955	5.3	9.0
ハンガリー	1956	6.3	8.8
ルクセンブルグ	1956	8.2	11.4
ノールウエー	1955	6.9	8.1
スウェーデン	1955	3.7	4.8
スイス	1955	1.2	2.0
イングランドおよびウェールズ	1955	1.2	2.2
北アイルランド	1956	3.5	5.1
スコットランド	1956	1.3	1.8

8 「老衰」の男女別「死因比率」

「老衰」死亡が他の死因にくらべてどの位の割合であるか、「死因比率」によつて検討すれば第6表、第4図のごとくである。

「老衰」の「死因比率」最高は、男女ともにフィリッピンで男子18.0、女子21.9である。最低はニュージーランドで男子0.7、女子1.0である。フィリッピンはニュージーランドの約22倍も多く「老衰」死亡の死因があることとなる。アジアのフィリッピン、日本、台湾は高率で、ヨーロッパ諸国は高率から低率まで種々の段階があ

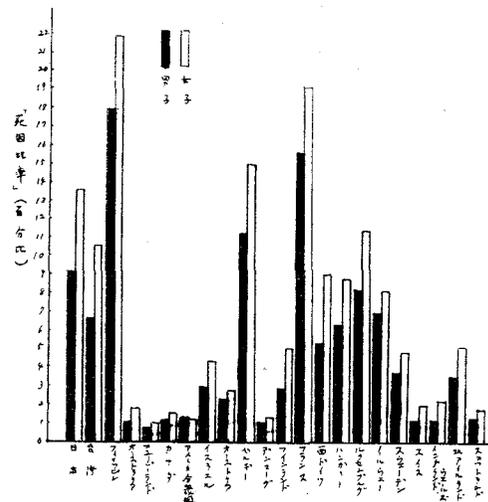
り、カナダ、アメリカ合衆国、オーストラリア、ニュージーランドは著しく低率である。その他の国は中間を占める。日本は男子9.2、女子13.6である。

訂正死亡率の高率5カ国の「死因比率」をみると、いずれも「死因比率」についても高率である。フィリッピンは男女ともに「死因比率」1位、台湾は男子7位、女子6位、フランスは男女ともに2位、日本は男女ともに4位、ベルギーは男女ともに3位である。訂正死亡率の低率5カ国みると、いずれも「死因比率」についても低率で、オーストラリアは男子14位、女子17位、カナダは男子17位、女子19位、デンマークは男子21位、女子20位、ニュージーランドは男女ともに22位、アメリカ合衆国は男子15位、女子21位となる。

IV 考 按

「老衰」死亡とは、臨床的に確たる診断法がなく一つの概念的な死因であるから、地理的、文化的諸条件を異にする各国間には、当然診断的傾向が異なるものと思われる。ここでこの傾向を左右する因子を二、三検討してみる。

各国の0才平均余命⁷⁾および年間国民所得(ドル)と、「老衰」死亡との関係を見る。寿命の長いことは、



第4図 「老衰」の男女別「死因比率」(百分比)

その国の医療水準や普及の程度を知ることができると思われ、また国民所得はその国の生活水準を示すものと思われる。吉利ら⁸⁾は、各国の心臓疾患死亡率の差を決定する因子を分析し、国民所得が死亡率を支配していることを確認した。著者は各国の国民所得について、吉利らの用いた数字⁹⁾を引用して検討した。

まず、「老衰」訂正死亡率が高率の日本、ベルギー、フランスについてみる。各国の寿命をみると、日本の男子は64.0才、女子68.0才(1955年)、ベルギーの男子は62.0才、女子67.3才(1946~49年)、フランスは男子63.6才、

女子69.3才(1950~51年)となり、その中は男子は62.0~64.0才、女子は67.3~69.3才である。また1954年の国民所得は、日本194.1ドル、ベルギー749.1ドル、フランス766.7ドルとなりその中は194.1~766.7ドルである。

「老衰」訂正死亡率が低率のカナダ、アメリカ合衆国、デンマーク、オーストラリア、ニュージーランドについてみる。寿命は、カナダの男子66.3才、女子70.8才(1950~52年)、アメリカ合衆国の男子65.4才、女子70.9才(1949~51年)、デンマークの男子67.8才、女子70.1才(1946~50年)、オーストラリアの男子66.0才、女子70.6才(1946~48年)、ニュージーランドの男子68.2才、女子72.4才(1950~52年)となり、その中は男子は65.4~68.2才、女子は70.1~72.4才をしめす。また1954年の国民所得は、カナダ1,267ドル、アメリカ合衆国1,845ドル、デンマーク766.6ドル、オーストラリア986.3ドル、ニュージーランド1,073ドルとなり、766.6~1,845ドルの中となる。以上の所見によると、「老衰」訂正死亡率が低率な国は高率な国よりも寿命が比較的ながく、国民所得も多い傾向を示す。これによつて「老衰」訂正死亡率の高低が、その国の文化程度に相当関係があることが推定される。

V 総 括

主要22カ国について総死亡率、「老衰」の粗および訂正死亡率につき検討した結果を総括すると、つぎのごとくである。

1 男女別総死亡率

男女ともにヨーロッパに高率国多く、北欧、フィリッピン、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ合衆国が中間、カナダ、台湾、日本、イスラエルが低率である。死亡率の最高は、男子オーストラリアの1,364.8、女子はフランスの1,142.1で、最低は男女ともにイスラエルで男子667.3、女子593.0である、日本は高率順にみて男子21位833.0、女子20位で722.6の低率である。

2 男女別「老衰」粗死亡率

高率から5カ国を示すと、最高はフランスで男子181.5、女子207.7となり、2位、3位、4位は男女ともにベルギー、フィリッピン、ルクセンブルグ、5位は男子西ドイツ、女子日本となる。低率な5カ国を示すと、18位男女ともオーストラリア、19位男子アメリカ合衆国、女子デンマーク、20位男女ともカナダ、21位男子デンマーク、女子ニュージーランドである。最低位は男子ニュージーランド7.8、女子アメリカ合衆国6.7である。最高と最低の率の差が著しい。日本は男子66.2、女子90.5である。

3 男女別「老衰」訂正死亡率

高率5カ国を示すと男女同様な順位で、1位フィリッピン、2位台湾、3位フランス、4位日本、5位ベルギーとなる。低率5カ国も男女同順位で18位オーストラリ

ア、19位カナダ、20位デンマーク、21位ニュージーランド、22位アメリカ合衆国である。最高のフィリッピンは男子189.7、女子198.8、最低のアメリカ合衆国は男子0.7、女子0.3で最高と最低の差が著しい。

そのほかヨーロッパは高率から低率の国まで分布し、北欧3国、イスラエルは中間である。4位の日本は男子75.2、女子81.0で女子が男子より高率である。

粗死亡率と比較すると、粗死亡率はフランスが男女とも1位で訂正死亡率は3位となる。訂正死亡率1位のフィリッピンは粗死亡率で男子3位、女子4位、訂正死亡率2位の台湾は粗死亡率は男子9位、女子8位である。フィリッピン、台湾はフランスにくらべ「老人人口比率」が著しく低率であつたため、死亡率を訂正するとフランスを凌いで高率となつた。低率5カ国については、粗死亡率の場合と低率の順位は大差なかつた。

4 「老衰」訂正死亡率の性比

性比の100以上は10カ国で、ニュージーランド、カナダ、アメリカ合衆国、ノールウェー、オーストリア、ベルギー、フランス、西ドイツ、ハンガリー、ルクセンブルグである。スコットランドとデンマークは100で、残りの10カ国は100以下である。ヨーロッパには性比100以下は少ない。性比の最高はアメリカ合衆国の233.3、最低はイスラエルの81.5で、日本は92.8である。

5 「老衰」の男女別、年令階級別死亡率

男女ともに高令者に「老衰」死亡が多く、とくに女子に著しい。

訂正死亡率の高率な国は、高年令層と低年令層の死亡率の差が比較的少ない。また訂正死亡率の低率な国も、年令階級による死亡率の差が小さい。その他の国、とくにオーストリア、フィンランド、ハンガリー、スイス、イングランドウェールズ、北アイルランドは一般に高令者に著しく「老衰」死亡率が高い。日本は45~64才は男子43.2、女子27.7、65才以上は男子1,292.2、女子1,448.4で、年令階級による死亡率の比率は男子約30倍、女子約50倍となる。

6 男女別「老年者老衰死亡率」

高率な国、低率な国は訂正死亡率の場合と大体同様な国が占めるが、訂正死亡率の場合とくらべ最高率と最低率が接近していることが観察された。最高のフィリッピンは男子89.7、女子89.4、日本は男子5位で32.6、女子4位で42.4である。最低は男子デンマークの2.7、女子はアメリカ合衆国の2.2である。

7 男女別「老人人口比率」

最高率は男子スウェーデン147.7、女子フランス192.5で、最低率は男女とも台湾で男子34.3、女子45.9である。22カ国全部女子が男子より高率である。

男女ともにヨーロッパは「老人人口比率」が高率から中間までの国が占め、北欧も高率であるが、フィンラン

ドのみは低率である。アメリカ合衆国, オーストラリア, ニューゼーランドは中間で, カナダ, アジア3国は著しく低率である。日本は高率からみて19位で, 男子73.8, 女子87.4である。

訂正死亡率の高率5カ国, フィリッピン, 台湾, フランス, 日本, ベルギーのうち, フィリッピン, 台湾, 日本は老人人口が少なく「老衰」死亡が多い。フランス, ベルギーは老人人口も「老衰」死亡も多い。訂正死亡率の低率5カ国は, 老人人口が高率から中間位までで, 老人人口の多少と訂正死亡率の低率であることとあまり関係あるように思われない。

8 男女別「老衰」の「死因比率」

最高はフィリッピンで, 男子18.0, 女子21.9, 日本は4位で男子9.2, 女子13.6, 最低はニューゼーランドで男子0.7, 女子1.0であった。一般にアジアは高率で, ヨーロッパは高率から低率まであり, カナダ, アメリカ合衆国, オーストラリア, ニューゼーランドは低率である。他は中間を占める。

訂正死亡率の高率5カ国は, いずれも「死因比率」が著しく高く, 低率5カ国はいずれも「死因比率」が著しく低い。

要するに, 1955年および1956年の成績による各国の「老衰」訂正死亡率を主として検討した結果, アジア3国は死亡率が高率で, 「老人人口比率」は低率, 「死因比率」は高率である。また寿命は短く, 国民所得も少ない。一方, ベルギー, フランスは死亡率は高率で, 「老

人人口比率」および「死因比率」はともに高率で, 寿命および国民所得は中等度である。アメリカ合衆国, カナダ, オーストラリア, ニューゼーランド, デンマークの諸国は, 死亡率は低率で, 「老人人口比率」は高率または中等度, 「死因比率」は著しく低率の傾向を示し, 寿命は長く, 国民所得も多い傾向を認めた。

擧筆に当り, 終始御懇切なる御指導, 御校閲を賜りました吉岡博人教授ならびに諸岡妙子助教授に深く感謝致します。

参考文献

- 1) 石川徹: 東女医大誌 30 2221 (昭35)
- 2) 石川徹: 東女医大誌 30 2238 (昭35)
- 3) 石川徹: 東女医大誌 30 2246 (昭35)
- 4) 厚生省大臣官房統計調査部: 昭和31年人口動態統計 上巻
- 5) 渡辺定: 老年病学 190 金原出版 東京 (昭31)
- 6) 厚生大臣官房統計調査部: 昭和25年より日本に於いて採用した疾病, 傷害及び死因統計分類提要 第一巻 (昭25)
- 7) 渡辺定: 老年病学 203 金原出版 東京 (昭31)
- 8) 総理府統計局: 国際統計要覧 (昭31)
- 9) 吉利和, 他3名: 総合医学 14 893 (昭27)

資料

Statistical Office of the United Nations;
Demographic Yearbook, New York (1956,
1957)